

### 35. 自然文化を楽しく学ぶ科 (2024年度)

(木曜日 授業予定表) 講師:菅井啓之、沖和行、清水孝之、植松千代美、斉藤明子

					午前			午後		
回	月	日	曜日	講座数	テーマ	内容	講師名	テーマ	内容	
1 学期	1	8	月	①	①入学式&オリエンテーション(合同、大阪国際会議場)					
	2	4	18	木	1	自然文化を味わうための自然の見方	総合的な自然の見方から生み出された自然文化	菅井啓之①	自己紹介、年間学習・行事予定等の説明	
	3		25	木	2	植物のちから(1)	植物と人とのつながり	沖 和行①	高大オリエンテーション 班内役割決定 遠足係打合	
	4	5	9	木	3	★奈良春日山原始林	世界文化遺産である太古の森の姿を味わう	菅井啓之②	自主活動 班での遠足場所検討	
	5		16	木	4	身近な植物 春-初夏編 と 大阪城公園ミニ観察		清水孝之①	” 委員長・各係長決定	
	6		30	木	5	★植物のちから(2)	神戸市立森林植物園	沖 和行②	” 班での遠足場所検討	
	7	6	6	木	6	社寺林の意義を考える	神社仏閣の裏山にこそ日本文化の原点がある	菅井啓之③	②社会への参加活動(体験発表) 遠足場所決定	
	9	6	13	木	7	植物の不思議	東北地方に自生する野生梨の多様性について	植松千代美①	自主活動 遠足案内配布 班活動(テーマ検討)	
	10		20	木	8	★箕面国定公園	原生的なシイ林が広がる光景こそ日本の原風景	菅井啓之④	” 班活動(テーマ検討)	
	11		27	木	③	★ ③遠足				
	12	7	4	木	9	樹木の生き残り戦略		清水孝之②	自主活動 班活動(テーマ決定)	
	13		11	木	10	日本の美意識(わび・さび・幽玄)	日本美に底流している精神性と自然との深い関わり	菅井啓之⑤	” 班活動	
	14		18	木	11	植物散歩と標本づくり	周辺の植物解説と葉脈標本づくり	斉藤明子①	” 班活動	
	夏 休 み									
2 学期	15	9	19	木	12	身近な植物 秋編 と 大阪城公園ミニ観察		清水孝之③	自主活動 健康まつり説明	
	16		26	木	13	★植物のちから(3)	京都府立植物園	沖 和行③	”	
	17	10	10	木	14	巨樹・古木の意義を考え樹木を楽しむ	樹木は日本の森林文化の根底にあるもの	菅井啓之⑥	” コーダイフェスタ内容説明	
	18		16	水	④	④コーダイ健康まつり(服部緑地陸上競技場)				
	19	10	24	木	15	★京都御苑の樹木に親しむ	多くの古木に出会い、樹木を味わうには最高の場所	菅井啓之⑦	自主活動	
	20		31	木	16	植物のちから(4)	植物の生きるための理由	沖 和行④	” コーダイフェスタ準備	
	21	11	7	木	17	★自然観察	山田池公園	清水孝之④	”	
	22		21	木	18	日本庭園・盆栽・水石の心	自然風景の味わいを縮図にして日常化した文化に触れる	菅井啓之⑧	” コーダイフェスタ準備	
	23		28	木	⑤	⑤コーダイフェスタ(豊中市立文化芸術センター)				
	24	12	5	木	19	★万博公園内の日本庭園	世界に向けて日本の庭園の美意識と技術を展開したもの	菅井啓之⑨	自主活動	
25		12	木	⑥	⑥社会への参加活動					
26		19	木	20	チョウと植物の関わり		清水孝之⑤	”		
冬 休 み										
3 学期	27	1	9	木	21	★都市・森・人をつなぐ森の植物園の魅力と役割	大阪公立大学附属植物園での講義と自由散策	植松千代美②	自主活動	
	28		16	木	22	自主企画講座				
	29		23	木	23	★自然観察における自然文化(服部緑地)	都市公園でどのように自然文化を味わうか	菅井啓之⑩	” 成果発表会準備	
	30	2	6	木	24	植物のちから(5)		沖 和行⑤	” 成果発表会準備	
	31		13	木	25	日本の自然観の意義を考える	自然文化の根底には日本の伝統的な自然観が流れている	菅井啓之⑪	” 成果発表会準備	
	32		20	木	学習成果発表会					
	33				⑦	⑦修了式				
	34	3	6	木	⑧	⑧・⑨卒業旅行(1泊2日)				
35		7	金	⑨						
授業(自主企画、成果発表会含む)							26			
学習事業(①~⑨)							9		2024.03.20改訂	
合計							35			

注) 1. 日程、カリキュラム内容等は、都合により変更になる場合があります。